

**3 認証評価機関・日本学術会議共催「第3回シンポジウム」
これからの大学教育の質保証のあり方—大学と評価機関の役割—**

パネリスト講演資料

「個性的な地域貢献型大学を目指す山口県立大学の歩みと質向上への取組み」

市村 孝雄（山口県立大学名誉教授 学長特別補佐）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ～ 13 頁

「「大学側から見た質保証の課題」—九州大学における認証評価の経験から—

高田 英一（九州大学大学評価情報室准教授）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14 ～ 23 頁

「金沢工業大学における取組み—話題提起として—

久保 猛志（金沢工業大学副学長 教育点検評価部長）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24 ～ 46 頁

「大学の多様性と評価」

北村 隆行（京都大学大学院工学研究科教授）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（別冊）

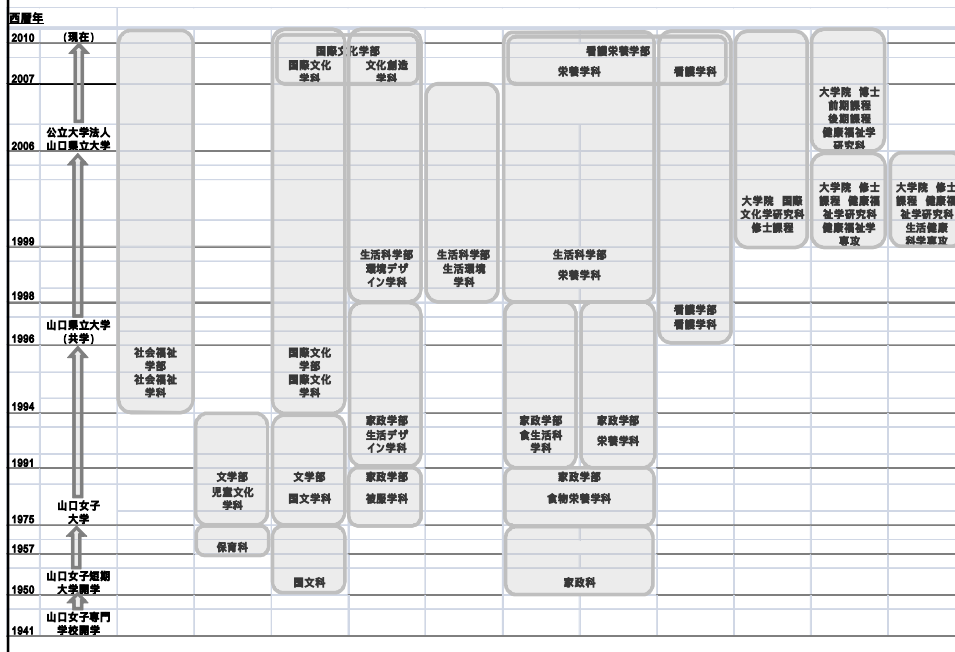
個性的な地域貢献型大学を目指す

山口県立大学の歩みと

質向上への取組み

山口県立大学学長特別補佐 市村 孝雄

山口県立大学の沿革(学部学科改組再編の足取り)



山口県立大学は
人間性の尊重
生活者の視点の重視
地域社会との共生
国際化への対応
を基本理念に掲げる地域貢献型大学

現在の 3学部 5学科 2研究科体制



さらに……

多様な生涯学習機会を提供します(山口県立大学オープンカレッジ)



キャリアアップコース

キャリアアップ研修

看護職、社会福祉職、栄養職、教育職等のキャリアアップ研修

- ・ 現職者のスキルアップ、職場復帰のための再教育、資格取得の支援などを目的とした研修を実施
- ・ セミナール形式で実施
- ・ 大学キャンパス内で実施

生涯学習発展コース

やまぐち桜の森カレッジ

生活や仕事、地域活動等における課題解決型専門講座

- ・ セミナール形式で実施(3~6ヶ月)
- ・ 大学キャンパス内で実施
- ・ 基礎・総合講座と専門講座(4コース)

- やまぐち桜の森ネットワーク関連講座
- ・ YPU(山口県立大学)生涯学習ボランティア講座
- ・ すこやかライフセミナー

サテライトカレッジ

県内の市町にサテライトして行う参加型専門講座

- ・ セミナール形式等で実施(3~10回)
- ・ 同じ市町で5年間程度継続実施

生涯学習基礎コース

公開講演会

客員教授の特別講演等を公開

- ・ 客員教授特別講演
- ・ 公開講演会等

公開授業

大学の授業を公開

- ・ 大学の授業を学生と共に受講
- ・ 基礎・教養科目を中心に公開

公開講座

県内の市町と共催して行う出前講座


- ・ 大学の教育研究の成果を地域に還元する
- ・ 各学部、短大文学資料センター等が各々1講座を提供
- ・ 生活密着型の教養講座(4~5回シリーズ)
- ・ 県内市町を巡回して実施する



山口県立大学のGOOD PRACTICE

教育向上、学生支援、社会人教育、国際化推進、大学連携

山口県立大学の“Good Practice”		
年度	種別	取組の名称
19 - 21	現代GP(環境)	持続可能な社会に繋がる人的財産の育成 新生活スタートから持続可能な生活基盤づくりを支援する実践的環境・健康教育
19 - 21	現代GP(地域)	やまぐち多世代交流・地域共生授業の展開 山口市の都市部と田園部におけるワークショップ型授業による団塊世代と若者の定住促進
19 - 21	特色GP	「重層的学生支援教育」による福祉人材養成 学生の成長課題と専門教育課題の有機的結合による福祉の人間力獲得をめざして
19 - 23	学生支援GP	総合的人間関係力を涵養する学生支援 大学と地域で作るブレ社会における実践的トレーニング
19 - 21	社会人GP	地域と大学が共に育つ専門的学習機会の提供 行動変容を促進する栄養指導法を身に付ける栄養士キャリアアップ支援プログラムの開発
20 - 22	国際化加速GP	英語で世界に発信する地域遺産教育の開発 LOLを取り入れた“やまぐち地域遺産スタディーズ”の構築をめざして
21 - 23	大学連携GP	個性的小規模大学連携による地域活性型e-quality仮想的大学の創生 地域の人材育成と活性化のために学生、高校生、地域に提供する新たな学習機会



現代GP

持続可能な社会に繋がる人的財産の育成

～新生活スタートから持続可能な生活基盤づくりを支援する実践的環境・健康教育～

環境と健康の視点から取組むESD


地球市民としての自覚形成を目指して

1. 企業の社会的責任
2. 消費者の社会的責任
3. 地球市民の社会的責任

の重要性を理解し、多角的総合的に現象を捉え、自ら行動できるそんな次世代の担い手を育てる教育を提供することが大学の社会的責任である、と考えます。

ESD基盤づくりとしての初年次教育と副専攻

1. キャンパスルーターの生活基盤形成時に、環境と健康を配慮した行動ができるよう、持続可能な実践教育を展開しています。
2. 副専攻では、全学部学生に社会的ニーズの高い専門的「環境システム」の学習機会を提供し、創発的プロセス思考や実践力を身につけるESDを展開しています。




持続可能な社会の表現

消費者の社会的責任 CSR

企業等の社会的責任

環境と健康



健康を維持する環境づくり

学生活動支援センターの設置

学生支援GPは、昨今の大学生の「人と関わる力」の低下を、学生個々の能力の低下ではなく生活経験や社会体験の不足から来るものと考え、その経験を補っていくことを目的としています。そのために平成20年度には、学生支援部の中に新たに「学生活動支援センター」を設置しました。学生活動支援センターでは専任職員（学生活動コーディネーター）3名、教員（兼任）2名の計5名を配置し、学生活動の活性化に向けたさまざまなサポート業務を行っています。



「学生スタッフ」制度

「学生スタッフ」制度は、学内のさまざまな公的活動に学生をスタッフとして雇用し、奨励費を支給することで、大学の構成員としての自覚や責任を持ってもらうことだけでなく、経済的支援を行う事も目的としています。平成20年度は、延べ200人の学生が計3,300時間の活動に従事しました。

平成20年度 学生スタッフ活動一覧
大学行事補助
入学式 卒業式 運動補助
オープンキャンパス ミニオープンキャンパス 運動補助
就職ガイダンス、自己企画、特別説明会 運動補助
環境「みらい」サミット 運動補助
大学祭プラットフォーム（説明と運動） 運動補助
マシナリプロジェクトコンテスト 運動補助
県立大学フェスタ 運動補助
大学内業務補助
遠隔授業における通信授業の操作補助
「法学」(法曹科目)の授業補助
図書館図書整理補助
地域文化の再検討（山形県立大学資料センター所蔵資料のアーカイブ）
実務経験の専門性の観点からなる先端的プログラム開発研究会に伴う協働作業
題名に「FD」のある気づきO（学生による動画 動画マナーアップ活動）
学生相互の支援（留学生・下級生支援など）
ピアサポート活動
交換留学生の日本語チューター及び生活支援
外国人留学生向け生活ハンドブックの制作・印刷作業等
受検生おてし

オープンキャンパス運営補助

参加した高校生と保護者の方々に対する案内や誘導係として活動しました。平成20年度本学に入学生した1年生も、しっかりとした様子で学内の案内や説明をしていました。



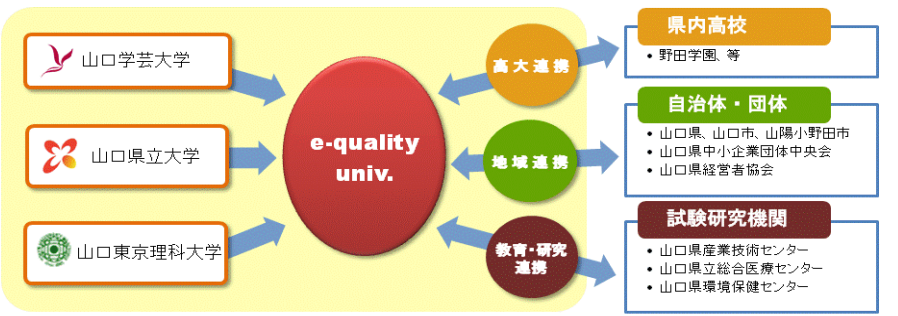
憩いと思いやりのある場づくり
(学生による駐輪・駐車マナーアップ活動)

学内を巡回し、声かけを行いながら、学内の環境美化とマナーアップ意識の向上に取り組み、駐輪禁止スペースにあふれる自転車を整理し、マナー違反の自転車・自動車には張り紙をしました。マナーアップ活動とあわせて、「放置自転車の整理」の札付けも行ってました。



平成21年度「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」選定取組
取組名称：個人的小規模大学連携による地域活性型e-quality仮想的大学の創生
構成大学：山口県立大学、山口東京理科大学、山口学芸大学

3大学が対等な関係で作るe-quality仮想的大学を創出し、高校生や地域市民もアクセス可能なコンピニエンスな能動的学習空間を提供し、地域に学び生きる輝く学生を育み、地域を活性化する原動力とする。



- | | | |
|----------------------------|------------------------------------|-------------------------------|
| ① 高大連携教育プログラムモデルの開発 | ② 提案型フィールドワークによる地域活性化シーズの発掘 | ③ 地域課題解決に直結する学際的教育研究の推進 |
| (1) e-learningによる入学前・初年次教育 | (1) 地域中小企業団体とのインターンシップと提案型フィールドワーク | (1) 地域試験研究センターとの人的・物的資源の最大限活用 |
| (2) 教育の質保証(基礎教養科目の相互補充) | (2) 住民ニーズに応える能動的学習空間の提示 | (2) 地域産業の高度化 |
| (3) 教職員相互FD | | |

教員情報の積極的発信

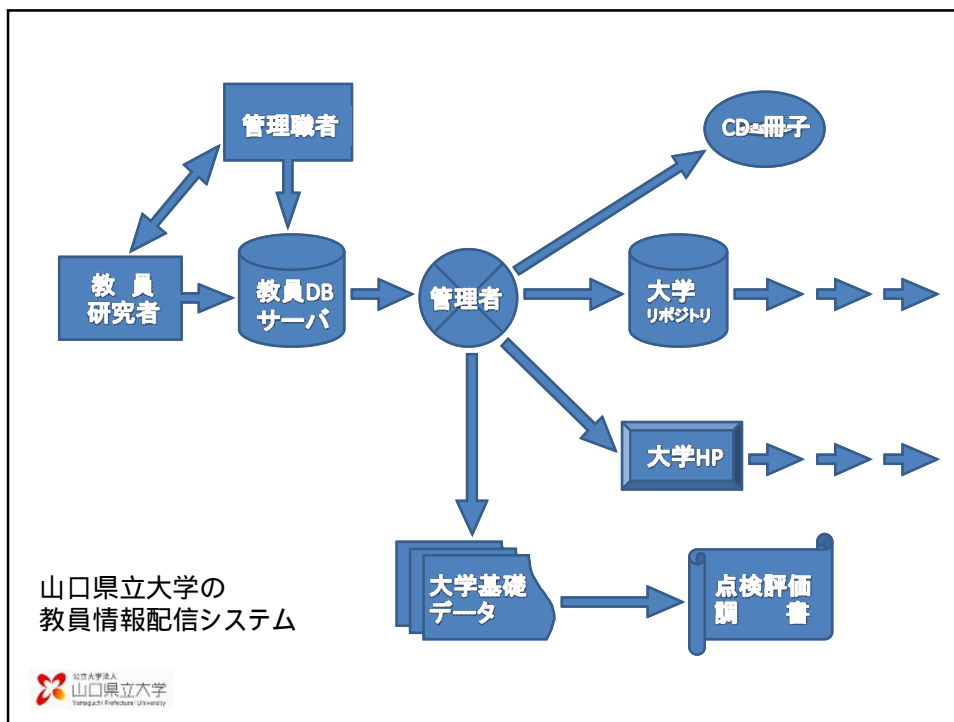
「教育力の向上の観点から公表が求められる情報」

- (1) 学部・学科・課程、研究科・専攻ごとの教育研究上の目的
- (2) 教育課程を通じて習得が期待される知識・能力の体系
- (3) 学修の成果に係る評価や卒業の認定に当たっての基準
- (4) 教育研究水準の向上のための取組

各種評価を踏まえた教育改善
特色ある教育研究活動
教職員の職能開発



教育力の向上
研究力の向上
開発力の向上



教員業績データベース登録項目			
項目群	記載項目		
A 教員の基本属性	1 氏名(ふりがな)	2 性別	3 生年月日
	4 取得学位	5 学位発行機関	6 最終学歴
	7 本学就任年月	8 大学院担当の有無	9 所属組織
	10 研究室名	11 場所(建物)	12 電話・FAX
	13 e-mailアドレス	14 HPのURL	15 研究テーマ
B 教育活動	1 教育内容・方法の工夫	2 作成した教科書・教材・参考書	3 作成した教育プログラム
	4 教育方法・実践に関する発表・講演等	5 FDへの参加	6 教育者への研修会や認定講習会への参加
	7 その他、教育研究上特記すべき事項	8 他大学の非常勤講師、客員教授など	9 学生支援(チューター、サークル顧問、オフィスアワー、進路相談など)
C 研究活動	1 著書	2 論文	3 学会または研究会発表
	4 芸術分野や実技の分野	5 委託研究・助成金	6 その他の研究・研修活動
D 学会等活動	1 一般会員	2 学会役員	3 学会・研究会等の開催
E 社会・地域貢献活動	1 各種委員会等	2 大学の主催する公開講座等	3 その他の地域活動
F 大学管理運営に関する役割	1 全学に関わる委員・役職	2 学部内委員	3 学外広報活動
	4 賞罰		
G 今年度の成果・課題 次年度の目標・計画	1 教育活動	2 研究活動	3 学会等活動
	4 社会・地域貢献活動	5 大学管理運営に関する役割	

山口県立大学の

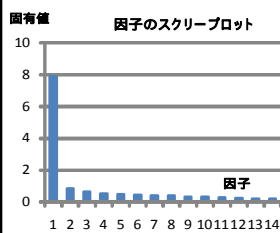
学生と卒業生の声を聞くシステム

授業評価システムとウェブアンケートシステム

学期末授業評価の分析結果

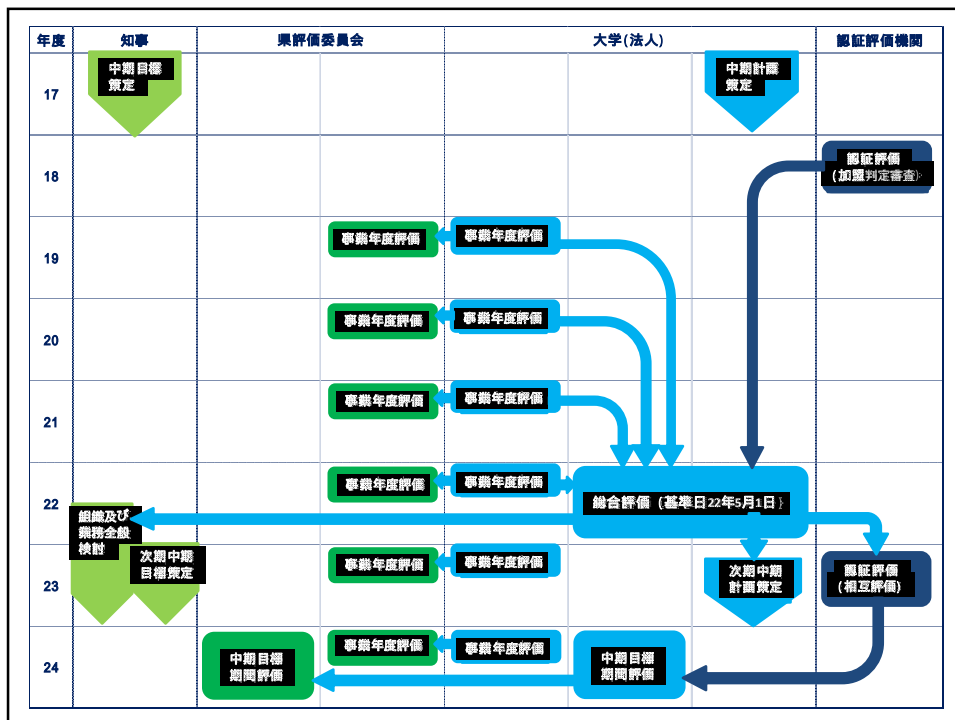
時期	2008年度前期、後期
対象	全学年のほぼすべての授業
方法	質問1～14にWeb上で回答
評価	1, 2, 3, 4, 5の5段階

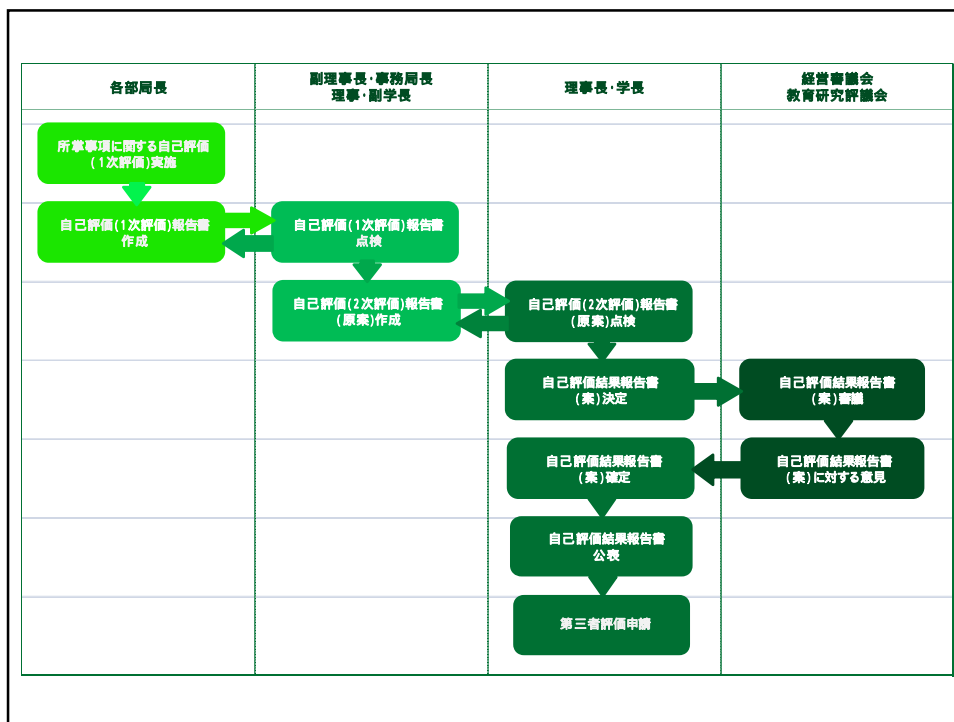
授業形態	前期	後期
講義	6825	3437
演習	871	604
実験	285	140
学外実習	142	486
実技	424	93
合計	8547	4760



授業評価項目	平均値	標準偏差	因子負荷量
1 この授業に興味や期待をもって受講しましたか？	4.21	0.87	0.75
2 シラバスは授業の全体像をつかむのに有効でしたか？	3.87	0.95	0.71
3 教員に教える熱意や学生への誠意が感じられましたか？	4.33	0.84	0.79
4 教員の毎回の授業準備は十分でしたか？	4.29	0.85	0.76
5 授業に関連した本や資料が適宜紹介されましたか？	3.96	1.02	0.67
6 授業では、学生の意欲化や理解を深める上での工夫がみられましたか？	4.12	0.93	0.85
7 全体的に教員の話し方(声の大きさ、速さ等)は聞き取りやすかったですか？	4.19	0.94	0.78
8 学生の関心や理解度を考慮しながら授業を進めていましたか？	4.03	0.97	0.85
9 教室の雰囲気は学習を進める上で適切でしたか？	4.11	0.92	0.79
10 全体を通して、授業の内容が理解できましたか？	4.06	0.88	0.82
11 学生の毎回授業評価は、この授業改善に役立ったと思いますか？	3.61	1.10	0.70
12 試験の内容やレポートのテーマ、分量等は適切でしたか？	4.07	0.90	0.73
13 総合的に判断して、この授業に満足できましたか？	4.15	0.89	0.86
14 授業を終えた今、自分でさらに学習を深めてみたいと思いませんか？	4.07	0.93	0.79

大学基準協会 大学基準	公立大学法人山口県立大学 中期目標(概要)
【理念・目的】 1 大学は、その理念に基づき、人材育成の目的、その他の教育研究上の目的を適切に設定し、公表しなければならない。	教育研究等の質の向上に関する目標(第2) 教育を重視する大学として、授与する学位の評価を高めるため、学生に高い学力と豊かな人間性を確実に身に付けた上で社会に送り出す仕組みを整える
【教育研究組織】 2 大学は、その理念、目的を踏まえて、適切な教育研究組織を整備しなければならない。	業務運営の改善及び効率化に関する目標(第3) 教育研究組織の見直し より効果的、効率的な教育研究を行うことができるよう、適切な見直しを行う
【教員・教員組織】 3 大学は、その理念、目的を実現するために、求める教員像や教員組織の編制方針を明確にし、それに基づき教員組織を整備しなければならない。	業務運営の改善及び効率化に関する目標(第3) 人事の適正化 能力、意欲、業績を反映して教職員にインセンティブが働く公正公平な制度を構築する
【教育内容・方法・成果】 4 大学は、その理念、目的を実現するために、教育目標を定めそれに基づき学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を明示しなければならない。 また、こうした方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容と方法を整備・充実させ、学位授与を適切に行わなければならない。	教育研究等の質の向上に関する目標(第2) 教育の質の向上 学位に相応しい学力と人間性を備えて社会に送り出す仕組みを整える 新たな教育課程を編成する 教育方法の改善に取り組む
【学生の受け入れ】 5 大学は、その理念、目的を実現するために、学生の受け入れ方針を明示し、その方針に沿って公正な受入を行わなければならない。	教育研究等の質の向上に関する目標(第2) 教育の質の向上 受験生の多様な個性や能力を適切に評価できる選抜方法を開発する
【学生支援】 6 大学は、学生が学修に専念できるよう、学修支援、生活支援および進路支援を適切に行わなければならない。	教育研究等の質の向上に関する目標(第2) 学生への支援 多様な学生の資質、能力を發揮させ、安全安心な生活と就職の支援を強化充実させる
【教育研究等環境】 7 大学は、学生の学修ならびに教員による教育研究活動を必要かつ十分に行えるよう、学習環境や教育研究環境を整備し、これを適切に管理運営しなければならない。	教育研究等の質の向上に関する目標(第2) 地域に密着した研究の促進 地域に密着した研究の実施体制を整備し、推進能力を高め、成果の普及に努める その他業務運営に関する重要目標(第6) 施設設備の整備活用 教育研究、情報基盤等の高度化、多様化に対応した施設について検討する
【社会連携・社会貢献】 8 大学は、社会との連携と協働に配慮し、教育研究の成果を広く社会に還元しなければならない。	教育研究等の質の向上に関する目標(第2) 地域共生センターと郷土文学資料センターの活用 センター機能を強化し、受託研究共同研究等、地域に貢献する研究を推進する
【管理運営・財務】 9 大学は、その機能を円滑かつ十分に發揮するために、明文化された規定に基づき適切な管理運営を行わなければならない。また、教育研究を支援しそれを維持・向上させるために、適切な事務組織を設置するとともに、必要かつ十分な財政的基盤を確立し、財務を適切に行わなければならない。	業務運営の改善及び効率化に関する目標(第3) 運営体制の改善、事務の効率化合理化を図る 財務内容の改善に関する目標(第4) 自己収入の増加、経費の抑制、資産の管理及び運用を改善する
【内部質保証】 10 大学は、その理念、目的を実現するために、教育の質を保証する制度を整備し、定期的に点検・評価を行い、大学の現況を公表しなければならない。	自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標(第5) 教育研究及び組織運営の状況について自己点検、評価を定期的に実施し、内容、方法を一層充実させ、大学の改善状況を住民にわかりやすく公表する



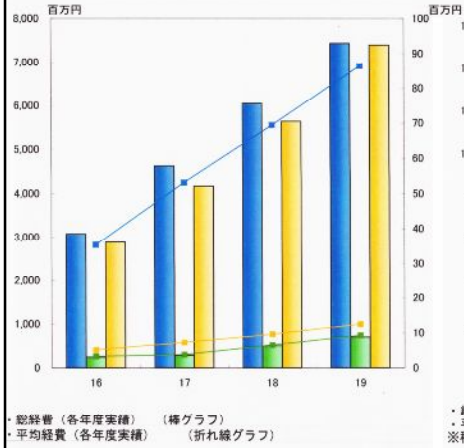


地方公立大学の一共有課題

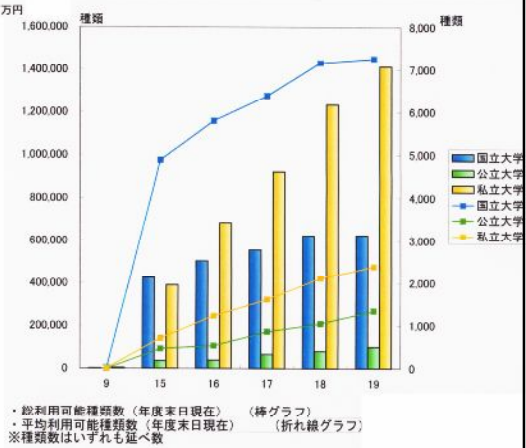
電子ジャーナル等の整備状況(平成19年度)

(文部科学省平成20年度学術情報基盤実態調査の結果報告から)

(1) 電子ジャーナルに係る総経費と平均経費



(2) 電子ジャーナルの総利用可能種類数と平均利用可能種類数



「大学側から見た質保証の課題」 －九州大学における認証評価の経験から－

高田 英一
九州大学大学評価情報室准教授

3認証評価機関・日本学術会議共催シンポジウム
第3回「大学側から見た質保証の課題」(2010年5月29日)



目次

1. はじめに
2. 九州大学における認証評価の経験
 - (1) 認証評価の受審について
 - (2) 認証評価で得られたもの
 - (3) 認証評価で明らかになった課題
 - (4) 3つの課題に対する対応
3. 九州大学の経験から見た「質保証の課題」
 - (1) 各種評価システム・評価機関間の相互連携の推進(2分)
 - (2) 大学内部の自律的な質保証と公的質的保証との共存(2分)
 - (3) 教育プロセスの公開及びアウトカム評価の推進(2分)
4. おわりに

1. はじめに

報告のスタンス

- ◆ 認証評価等の作業を行った評価実務担当者の視点から
- ◆ 九州大学(大規模、研究中心の大学)における経験に基づいて「大学側から見た質保証の課題」について報告。

(1) 認証評価の受審について

① 実施体制の構築

- 大学評価・学位授与機構の認証評価を受審(平成19年、2007年)
- 作業の実施体制
 - 企画部企画課・大学評価情報室との連携
 - 多様な部局・事務局各部署との連携
- 今後の教訓
 - 教育の「現場」である多様な部局の各々の事情・要望を踏まえて、信頼関係を構築することの重要性
 - 少人数で集中的に仕事を処理する体制確立の重要性

② 作業過程

- 作業における要点
 - 多様な部局の現況・根拠データを統一的なフォーマットにおいて把握
 - 大学及び各部署のそれぞれの個性・特徴の適切な表現
 - 社会への発信の観点からの、丁寧で分かり易い評価書の作成

(2) 認証評価で得られたもの

- ① 多数の部局を有する総合大学の全体の教育の実態が、統一的な形式・基準で俯瞰可能になったこと
 - ▶ 「九州大学ファクトブック(Q-Fact)」の刊行(2008～)
 - ・5年以上の経年データを活用し、変化を可視化
 - ・データから読み取れる特徴・課題を提示
- ② 評価に当たっては、具体的な取組を裏付ける根拠データが決定的に重要という認識が部局レベル(教育の現場)まで浸透したこと
- ③ 部局における評価の力量が向上したこと
 - ▶ 法人評価の際の負担軽減・効率化の促進

(3) 認証評価で明らかになった課題

- ① 大学における評価体制の充実の必要
 - ・評価に必要なデータが散在、収集・管理困難(「評価疲れ」の一要因)
 - ・データの収集・管理の効率化が必要。
- ② 教育上の取組の画一化・低い水準での平均化の予防の必要
 - ・「一定」・「最低限」の質保証をすればいい、という教育現場の誤解
- ③ 「評価」を「改善」に結びつける機能の強化の重要性
 - ・「改善を要する点」の指摘について、全学に対して、認証評価委員会から「機関別認証評価の総括と課題について」を提言。しかし、・・・

(4) 3つの課題への対応

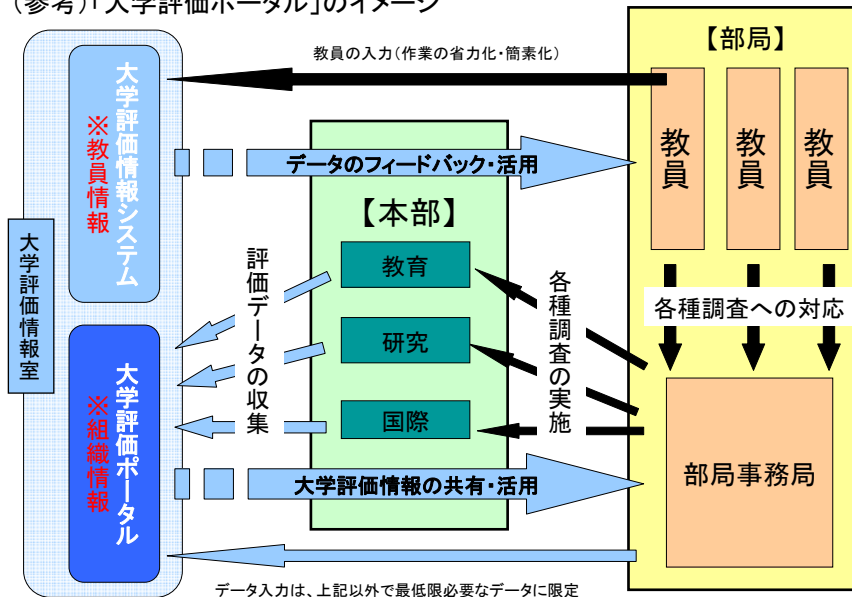
① 大学における評価体制の充実の必要

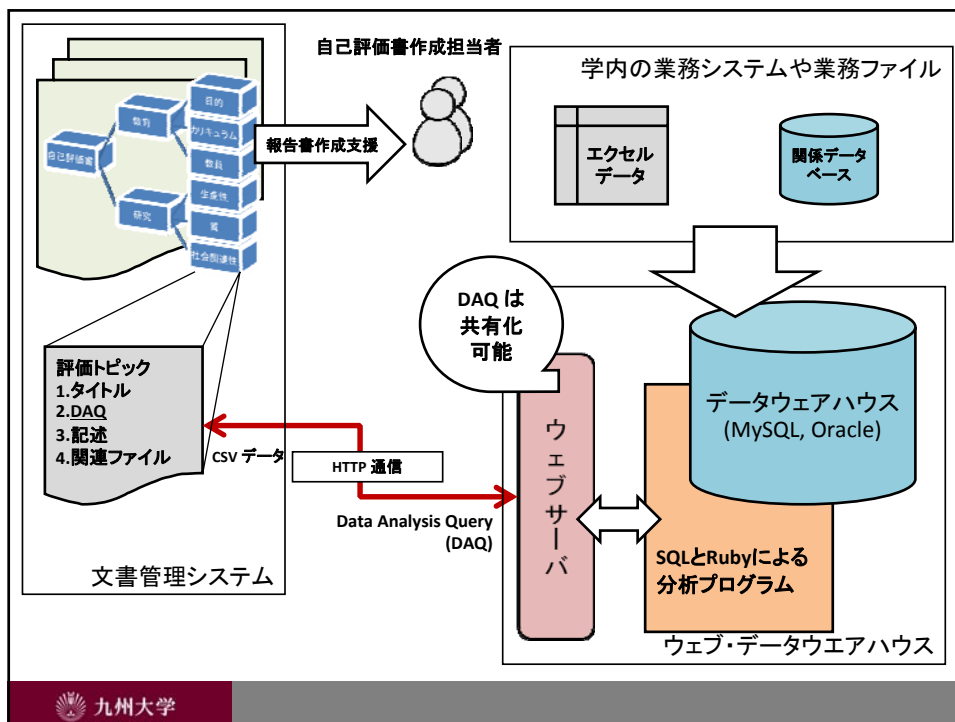
- 「大学評価情報システム」の改善(2007～)
 - ・教員個人の教育研究活動に関する情報の収集・管理
 - ・入力率99%(予算配分への連動、入力の効率化、Google検索で上位)

- 「大学評価ポータル」の構築(2010～)
 - ・組織の教育研究活動に関する情報の収集・管理
 - ・「評価疲れ」の原因の一つであるデータ散在と重複調査の防止
 - ・認証評価における内部質保証の取組にも拡張可能
 - ・学校基本調査や本部把握済みのデータ等の二次利用の推進
 - ・内部での運用成果を踏まえて、外部への提供も検討

- 学習成果を継続的に把握するシステム検討への協力(2009～)
 - ・学生の視点から教育成果を見たデータの収集が目的
 - ・教育改善を担当している学務企画課における検討への協力

(参考)「大学評価ポータル」のイメージ





(4) 3つの課題への対応

②教育上の取組の画一化・低い水準での平均化を予防の必要

- 認証評価の趣旨説明、多様な部局の特色を生かした教育上の取組を評価する主体的な工夫・努力が必要。
- 評価機関・日本学術会議への期待
 - 設定している評価項目・観点と、大学の個性・特徴ある教育目的とのつながりの重要性を意識するように誘導する工夫
 - ・「優れた取組・特徴ある取組」の例示に当たり、大学の独自の教育目的の達成度との関連も評価するなど
 - 分野別質保証
 - ・部局毎の個性・特色を生かすことが可能、また、部局における改善に活用可能

(4)3つの課題への対応

③「評価」を「改善」に結びつける機能の強化の重要性

	九州大学における全学レベルのPDCAサイクル	部局レベルのPDCAサイクル	個人レベルのPDCAサイクル
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全学の中期目標・中期計画 ・認証評価 ・自己点検・評価 (情報収集・管理支援ツール) ・大学評価ポータル ・中期計画進捗状況管理システム ・学生の学習成果を継続的に把握するシステム(検討中)	<ul style="list-style-type: none"> ・部局の中期目標・中期計画 ・自己点検・評価 ・「5年目評価・10年目見直し」 (情報収集・管理支援ツール) ・大学評価ポータル ・学生の学習成果を継続的に把握するシステム(検討中)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員業績評価 ・自己点検・評価 (情報収集・管理支援ツール) ・大学評価情報システム
研究	<ul style="list-style-type: none"> ・全学の中期目標・中期計画 ・認証評価 ・自己点検・評価 (情報収集・管理支援ツール) ・大学評価ポータル ・中期計画進捗状況管理システム	<ul style="list-style-type: none"> ・部局の中期目標・中期計画 ・自己点検・評価 ・「5年目評価・10年目見直し」 (情報収集・管理支援ツール) ・大学評価ポータル	<ul style="list-style-type: none"> ・教員業績評価 ・自己点検・評価 (情報収集・管理支援ツール) ・大学評価情報システム

(4)3つの課題への対応

③「評価」を「改善」に結びつける機能の強化の重要性

○全学レベル

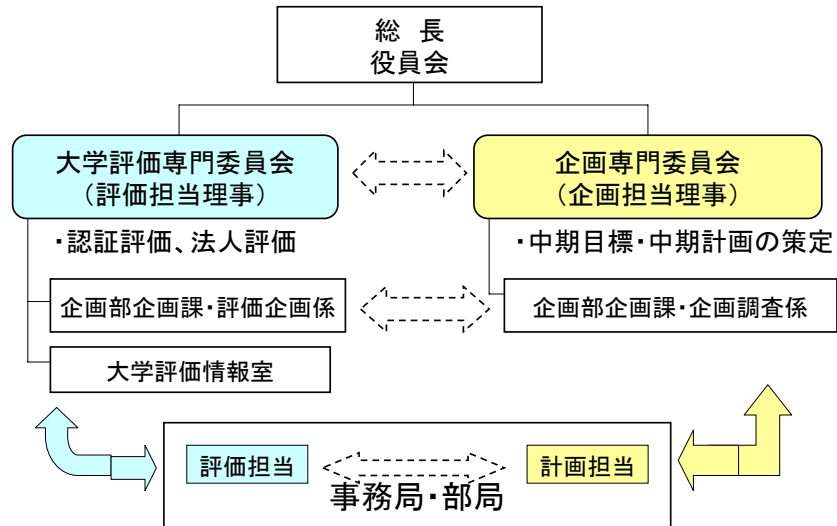
・企画部企画課と大学評価情報室において、大学評価を担当する全学委員会と、中期目標・中期計画を担当する全学委員会の連携の強化の方策を検討。

(毎年度の中期計画・年度計画の進捗状況を大学評価専門委員会で評価、企画専門委員会への報告・審議、部局・関係各課への改善要請 など)。

○部局レベル

・日常の活動レベルについて、計画の主体・単位および評価・改善の主体・責任を意識させるような仕組みの構築の支援(「大学評価ポータル」の活用など)。

(参考)九州大学(全学レベル)の評価・計画の実施体制



3.九州大学での経験から見た「質保証の課題」

①各種評価システム・評価機関間の相互連携の推進

○大学側の役割

評価作業の合理化・効率化を目指した取組を推進。

○評価機関側への期待

相互連携を通じた評価に係る負担の軽減

- ・共通する評価情報のデータベース構築、相互の評価データの共有・活用
- ・評価書類の書式の規格化の推進 等

②大学内部の自律的な質保証と公的質的保証との共存

○大学側の役割

社会的な責任を認識、全学・部局の両レベルで、自己点検・評価活動、内部質保証の仕組みの構築を推進。

○評価機関側への期待

- 大学におけるPDCAサイクル確立への支援（・外圧）
- ・評価を改善に結びつける努力（内部質保証システムの構築）を評価する工夫
- ・評価の実質化（評価者の資質向上、訪問調査の実質化 等）
- ・内部質保証の評価基準の具体化
- ・部局レベルの内部質保証の促進のための分野別の質保証の基準の開発

③教育プロセスの公開及びアウトカム評価の推進

○大学側の役割

教育情報の収集・分析、教育プロセスの情報公開、教育のアウトカムに関する情報の定義と収集・公開

○評価機関側への期待

- ・アウトカム指標の開発とそのデータの共有・活用
- ・分野別のステークホルダーとの連携によるアウトカム指標の策定

4. おわりに

●大学間連携を通じた大学評価手法の改善に関する取組

大学評価担当者集会・大学評価コンソーシアム

- 「大学評価担当者集会」を年1回開催(2007～2009)。参加者の増加。
- 恒常的な連携・協力の仕組みとして「大学評価コンソーシアム」を立ち上げ。

ご静聴いただき、ありがとうございました。

(問い合わせ先)
九州大学 大学評価情報室
TEL : 092-642-2279
Fax: 092-642-7309
Web: <http://www.ir.kyushu-u.ac.jp>
email: office@ir.kyushu-u.ac.jp

主要参考文献

- 関口正司(2010)「改善につながる評価を目指して－九州大学における認証評価への取組」
- 佐藤仁、森雅生、高田英一、小湊卓夫、関口正司(2009)「大学評価担当者の抱える現場の課題－アンケートの結果から－」『大学評価・学位研究』第9号、63-77頁。
- 森雅生(2009)「リサイクルデータを用いた大学情報のデータベース化について」、『大学探求』、琉球大学大学評価センター、31－38頁
- 佐藤仁(2009)「大学経営における「見える化」の一方策－大学のファクトブックに注目して」、『大学評価研究』、大学基準協会、65－72頁

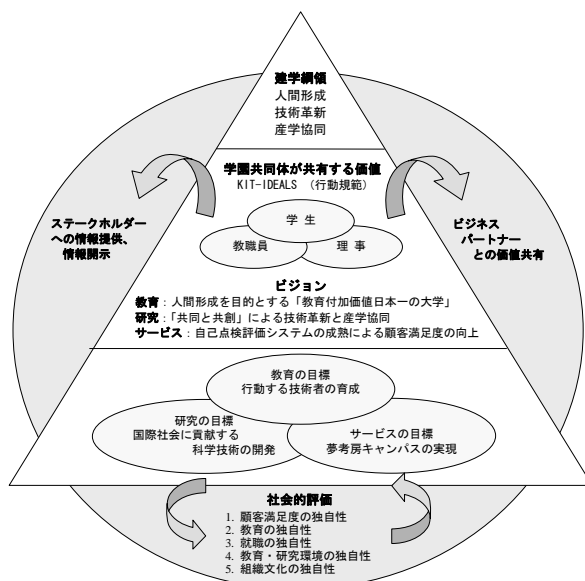
金沢工業大学における取組み —話題提起として—

金沢工業大学
副学長
教育点検評価部長
久保 猛志

100529

K.I.T. Takeshi KUBO 1

金沢工業大学のビジョン



100529

K.I.T. Takeshi KUBO 2

金沢工業大学の建学綱領

- ◎高邁な 人間形成
- ◎深遠な 技術革新
- ◎雄大な 産学協同

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

3

教育理念

科学・工学技術教育を通し、国際社会における日本人としての誇りと使命感を養い、また次代の技術革新を担い、今後の発展を継承し得る人材を育成すること。

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

4

学生諸君に何を求めるのか—教育目的

入学時の個々の学生の知識・知能・思考力・表現力・行動力等々のレベルの如何を問わず、4年間の学習・教育によって、

自ら考え行動する技術者

として社会で活躍できる人材にまで自らが向上することであり、更に、社会においてその力を存分に発揮することである。

卒業生諸君が、それぞれの活動分野において、**技術者として認められ、活躍していることが、本学における学習・教育の妥当性・正当性を保証することになる**ろう。

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

5

教育実践の軌跡—学生が主役の大学を目指して

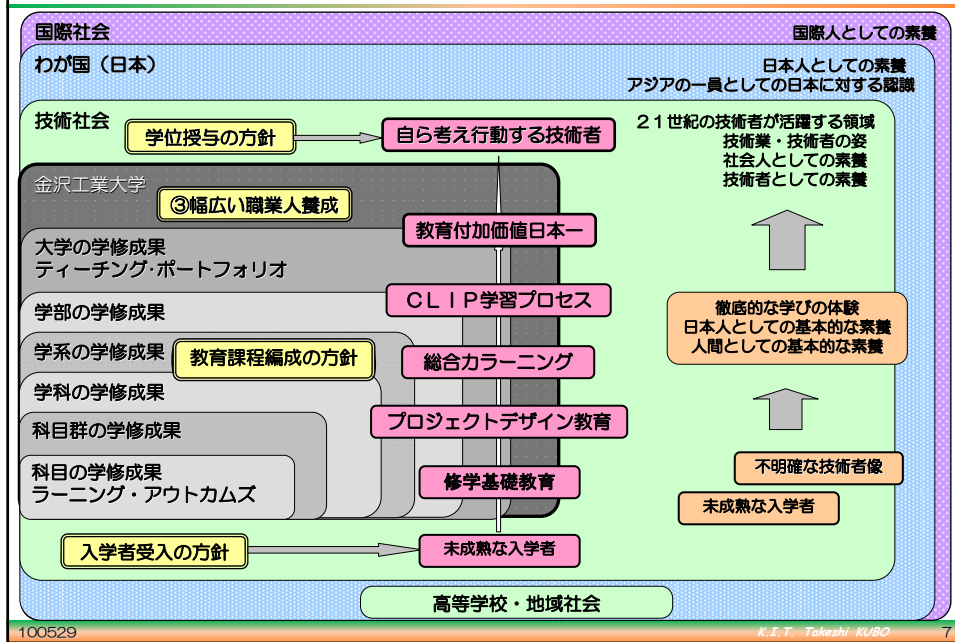
- 穴水湾自然学苑における人間形成教育
- 高度情報化社会の到来を見越した先駆的な情報処理教育
- CAIを利用した基礎学力の補完教育
- ネイティブ・スピーカーによる少人数英語教育
- 情報活用能力を育成する図書情報技術教育
- 学生の素質を伸ばす褒めの教育（学長褒賞制度）
- 基礎的実技能力を付与する工学基礎実技教育
- 工学基礎実技との一貫性を体系化した工学専門実技教育
- 問題発見、課題探求型教育による能力の総合化を目指す工学設計教育（プロジェクトデザイン教育）
- 目的指向型カリキュラムに基づく専門コア教育
- 自己成長型教育アクロノールプログラム
- 学生の自主的な創造活動を支援する夢考房活動（課外活動の支援）
- 年間300日、自己実現に向けて自主的・主体的に活動ができる夢考房キャンパス
- 気づき、努力、自信、意欲を引き出すKITポートフォリオシステム

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

6

金沢工業大学の学修教育の全体像



学習・教育目標の階層構造－1

➤ 建築・環境学部の学習・教育目標

- 人間が住まいし、活動する環境を計画・設計し、建設し、コントロールしてきた化学・土木・建築の各分野それぞれの領域を学び、かつお互いに連携することにより、安全・快適で持続可能な環境を創成できる人材の育成を目指す。

学習・教育目標の階層構造－2

▶ 建築都市デザイン学科の学習・教育目標

- ▶ 広範な領域を含む建築学に関する幅広い専門的基礎知識に基づき、安全で美しく快適な人間活動の器としての建築を都市とのかかわりや経済性をも考慮しながら、計画し、設計し、築き、運営することができる基礎的能力に加えて、建築設計・計画・意匠、都市計画・都市デザイン、建築環境・設備の各分野のいずれかに関するより高度な専門的知識を持ち、それを実務に応用することができる。

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

9

学習・教育目標の階層構造－3（1）

▶ 建築都市デザイン学科で育成する能力

- ▶ A 自己啓発・自己管理能力
修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身に付けるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につける。
- ▶ B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力
「知性と教養」・「感性と徳性」・「体力と健康」および技術者としての倫理観の涵養を図る。
— 略 —
- ▶ H 問題発見・問題解決能力
身近な工学の問題を解決するために、現在持っている知識に加えて必要な情報を集め、グループ活動を通して問題を解決することができる能力を身につける。
- ▶ I 建築を構成する諸領域（計画・構造・環境）の関係とそれぞれの概要を理解できる。

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

10

学習・教育目標の階層構造－3（2）

－ 略 －

- M 建築物の内外に形成される環境と人との関連性が理解できる。

－ 略 －

- W 建築から都市に至る物理的環境の評価とその改善のための計画ができる。
- X 建築環境と建築設備についての知識を基に、環境負荷の小さい建築の提案ができる。
- Y 人間の生理的・心理的反応を考慮して、快適な建築と都市の空間の立案ができる。

－ 略 －

- AA 建築の基礎から応用までの学習課程で得られたその時々知識を確認し、それを用いて問題を発見し、解決のための方策を考えることができる。

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

11

学習・教育目標の階層構造－3（3）

－ 略 －

- AC 建築・都市に関連する産業界の動向や公務員・教員、さらには大学院なども含めて将来の進路を幅広く展望し、自分自身をあらためて見つめ直した上で、自らの進むべき方向を決定することができる。

改訂：平成19年1月1日

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

12

学習・教育目標の階層構造－4

- 各科目における学習・教育目標
 - 「・・・ができる。」で表現される「行動目標」の明記
 - 学科の学習・教育目標と行動目標との関係性の明示
- 久保の担当科目（都市環境計画）での記述例。

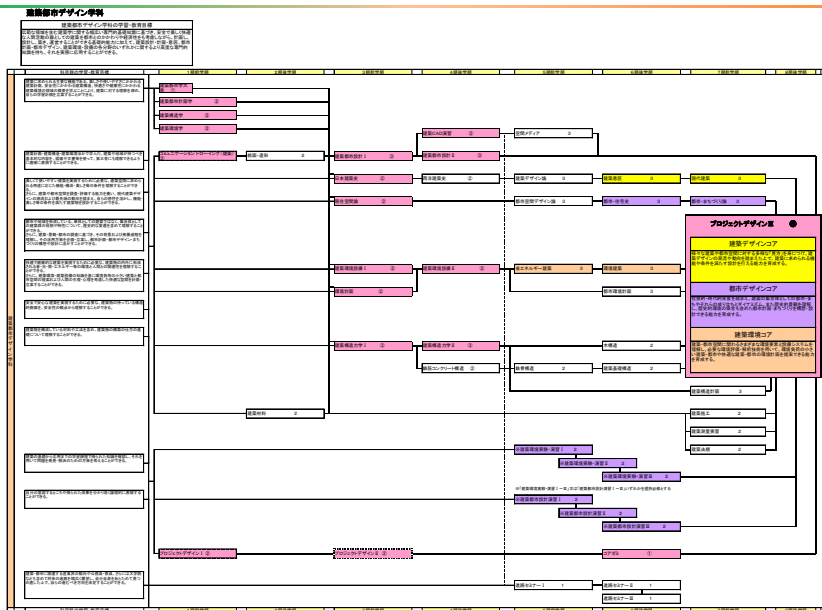
No.	学科教育目標 (記号表記)	学生が達成すべき行動目標
①	M, W	配布した資料をベースにして、都市環境に関する全般的な知識を学び、その全体像を把握することができる。
②	M, W	都市環境の問題点を考え、それについての評価と対策を提案することができる。
③	M, W	配付する資料や課題に従って、手を動かし、考えることで都市環境や建築環境を環境システムとして把握することができる。
④	M, W	身近な地域の環境状態を環境システムとして表現する手法を身につけることができる。

100529

K. I. T. Takeshi KUBO

13

学習の全体像の明示 (カリキュラムフロー)



100529

K. I. T. Takeshi KUBO

14

科目群としての学習・教育目標の明示

科目群の学習・教育目標	1期前学期	2期後学期	3期前学期
建築に求められる主要な機能である、美しさや使いやすさにかかわる建築計画、安全性にかかわる建築構造、快適さや健康性にかかわる建築環境の領域の建築を学ぶことにより、建築に対する理解を深め、自らの学習計画を立案することができる。	建築都市学大 概 ①	建築都市計画学 ② 建築構造学 ② 建築環境学 ②	
建築計画・建築構造・建築環境ほかで学んだ、建築や地域が持つべき基本的な内容を、図面や文章等を使って、第三者にも理解できるように適切に表現することができる。	英語コミュニケーション(建築) ②	絵画・造形 2	建築都市設計 I ③
美しく使いやすい建築を実現するために必要な、建築空間に求められる用途に応じた機能・構成・美しさ等の条件を理解することができる。 さらに、建築や都市空間を調査・評価する能力を養い、現代建築デザインの潮流および最先端の動向を踏まえ、自らの感性を活かし、機能・美しさ等の条件を満たす建築物を設計することができる。			日本建築史 ② 居住空間論 ②
都市や地域を形成している、単体としての建築ではなく、集合体としての建築群の役割や特性について、歴史的な変遷を含めて理解することができる。 さらに、建築・景観・都市の関係に基づき、その背景および発展過程を理解し、その活用方を企画・立案し、都市計画・都市デザイン・まちづくりの構想や設計に活かすことができる。			建築環境設備 I ② 環境計画 ②
快適で健康な建築を実現するために必要な、建築物の内外に形成される音・光・熱・エネルギー等の環境と人間との関連性を理解することができる。 さらに、建築環境・建築設備の知識を基に環境負荷の小さい建築と都市空間の提案および人間の生理・心理を考慮した快適な空間を計画・立案することができる。			

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

15

教育改善（質保証）への取組み

- 人間力教育（総合力＝学力×人間力）
- 総合力評価の試み（CLIP学習プロセス）
- 学習支援計画書（シラバス）
- 総合力指標に関する重み付け
- 学生自身による学習・教育目標達成度の確認
- 教育プログラムの点検・評価と改善のためのPDCA

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

16

人間力

- 新しい時代を切り拓くたくましい日本人の育成のための指導理念（「人間力戦略ビジョン」文部科学省広報25号、平成14年9月30日）
- 社会を構成し運営するとともに、自立した人間として力強く生きていくための総合的な力（『人間力戦略研究会報告書』内閣府諮問機関、平成15年4月10日）

金沢工業大学 「社会に適應できる能力」

- ・社会で自分を活かして生きていける力
 - ・あらゆる人とのコミュニケーションを円滑に図り、ひとりの大人として責任ある行動がとれる力
- ① 自立・自律（チャレンジ精神、自己管理能力）
 - ② リーダーシップ（統率力、指導力）
 - ③ コミュニケーション能力（意思・感情・思考を伝達する能力）
 - ④ プレゼンテーション能力（提示・発表する能力）
 - ⑤ コラボレーション能力（協働・協調する能力）

教育現場において可能な指導

100529

K.S.T. Takeshi KUBO

17

学力×人間力 = 総合力の関係

学力

主に授業や学習活動で学ぶ内容

×

人間力

- ◎ コミュニケーション能力
- ◎ プレゼンテーション能力
- ◎ リーダーシップ能力
- ◎ コラボレーション能力
- ◎ 自立・自律力

習得してほしい能力

知識を取り込む力

思考・推論・創造する力

発表・表現・伝達する力

リーダーシップと
コラボレーション

学習に取り組む姿勢・意欲

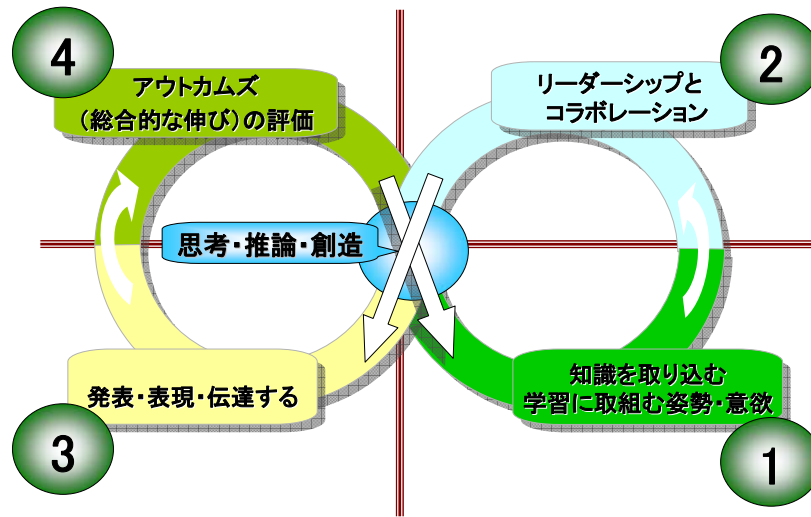
アウトカムズ（総合的な伸び）

100529

K.S.T. Takeshi KUBO

18

総合力育成のプロセスは連続している

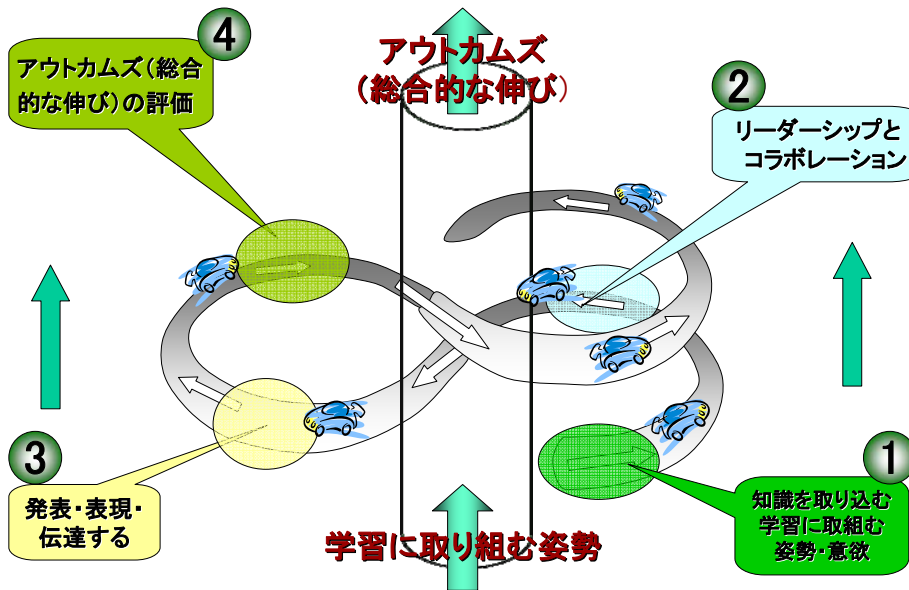


100529

K.I.T. Takeshi KUBO

19

学習プロセスがスパイラル上昇



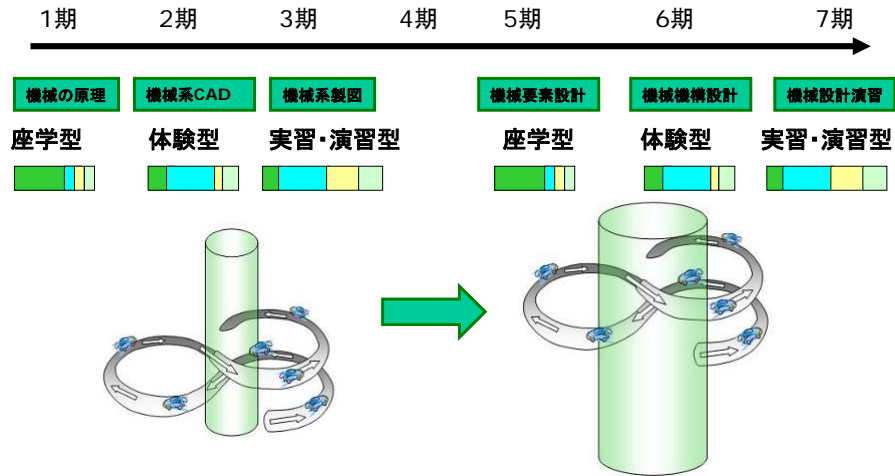
100529

K.I.T. Takeshi KUBO

20

各教育プログラムと科目群

機械工学科 教育目標の一つ『設計能力』を例にすると



100529

K.I.T. Takeshi KUBO

21

新学習プロセス (CLIP) の導入

学力 × 人間力 = 総合力

評価手法が不十分

新しい評価手法を含めた
新学習プロセス (CLIP) を導入

CLIP Creative Learning Initiative Process

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

22

学習支援計画書の内容

学生の目線

1. 授業科目の学習教育目標
2. 授業の概要・学習上の助言
3. 教科書・参考書
4. 履修に必要な予備知識
5. 学生が達成すべき行動目標 「〇〇することができる」
6. 達成度評価（評価方法・指標と評価割合）
7. 評価の要点
8. 具体的な達成の目安
9. 授業明細表（1授業毎：学習内容・授業の運営方法・学習課題）

- ★ 評価の内容と基準の提示 → 透明性
- ★ 達成度確認試験 → 全評価数値の40%以内
- ★ 17年度より定期試験の廃止
- ★ 結果重視型 → プロセス重視型
- ★ 成績異議申立制度

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

23

学習支援計画書（シラバス）

授業科目名	担当教員	単位数	履修条件	到達目標
英語基礎Ⅰ	田中 太郎	2	英語基礎Ⅰ	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎Ⅱ	田中 太郎	2	英語基礎Ⅱ	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎Ⅲ	田中 太郎	2	英語基礎Ⅲ	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎Ⅳ	田中 太郎	2	英語基礎Ⅳ	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎Ⅴ	田中 太郎	2	英語基礎Ⅴ	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎Ⅵ	田中 太郎	2	英語基礎Ⅵ	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎Ⅶ	田中 太郎	2	英語基礎Ⅶ	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎Ⅷ	田中 太郎	2	英語基礎Ⅷ	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧA	田中 太郎	2	英語基礎ⅧA	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧB	田中 太郎	2	英語基礎ⅧB	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧC	田中 太郎	2	英語基礎ⅧC	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧD	田中 太郎	2	英語基礎ⅧD	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧE	田中 太郎	2	英語基礎ⅧE	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧF	田中 太郎	2	英語基礎ⅧF	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧG	田中 太郎	2	英語基礎ⅧG	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧH	田中 太郎	2	英語基礎ⅧH	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧI	田中 太郎	2	英語基礎ⅧI	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧJ	田中 太郎	2	英語基礎ⅧJ	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧK	田中 太郎	2	英語基礎ⅧK	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧL	田中 太郎	2	英語基礎ⅧL	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧM	田中 太郎	2	英語基礎ⅧM	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧN	田中 太郎	2	英語基礎ⅧN	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧO	田中 太郎	2	英語基礎ⅧO	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧP	田中 太郎	2	英語基礎ⅧP	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧQ	田中 太郎	2	英語基礎ⅧQ	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧR	田中 太郎	2	英語基礎ⅧR	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧS	田中 太郎	2	英語基礎ⅧS	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧT	田中 太郎	2	英語基礎ⅧT	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧU	田中 太郎	2	英語基礎ⅧU	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧV	田中 太郎	2	英語基礎ⅧV	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧW	田中 太郎	2	英語基礎ⅧW	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧX	田中 太郎	2	英語基礎ⅧX	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧY	田中 太郎	2	英語基礎ⅧY	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。
英語基礎ⅧZ	田中 太郎	2	英語基礎ⅧZ	英語の基礎知識と技能を習得し、日常会話に活用できる。

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

24

新しい評価方法（総合力評価）

手段

	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計
	30	10	20	30		10		100
知識を取り 組む力	10	10						20
思考・推 論・創造力	20		20					40
コラボレー ション・ リーダー シップ				15				15
発表・表 現・伝達力				15				15
学習姿勢・ 意欲						10		10

能力

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

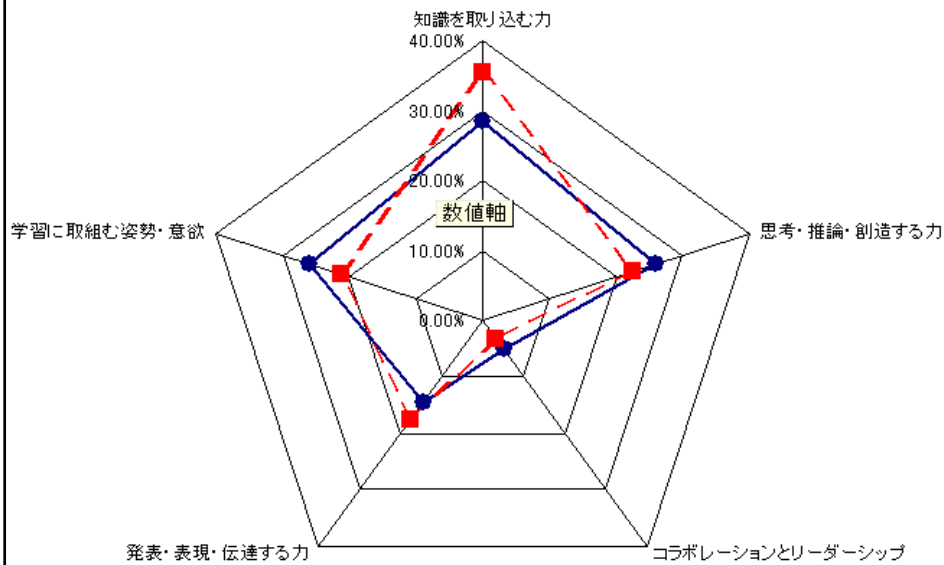
25

学生の自己点検

学習で取り組んだ能力・不足する能力

学科・課程教員のFD

学部・学科・課程の各能力の配分検証



100529

K.I.T. Takeshi KUBO

26

総合力指標に関する重み付け

主任会議資料
平成20年12月17日

教務部長 佐藤 浩一

CLIP学習支援計画書の総合力指標に関する重み付けについて

本年度から本邦適用しているCLIP学習支援計画書の総合力指標について、学生が修得することが期待される総合力の具体的なイメージを視覚化するため、昨年5月30日のKIT評価向上委員会(部会長)で確認されている以下の重み付けを実施しました。

例えば、「修学基礎1」は1単位の授業をもって以下の割合で総合力の修得を目標としています。

科目名	知識を取り込む力	思考・推論・創造する力	コラボレーション・リーダーシップ	発表・表現・伝達する力	学習に取り組む姿勢・意欲
修学基礎1	25%	20%	5%	0%	50%

そこで、1単位の授業で、重み1という総合力を修得すると設定した場合、以下のようになります。

科目名	知識を取り込む力	思考・推論・創造する力	コラボレーション・リーダーシップ	発表・表現・伝達する力	学習に取り組む姿勢・意欲
修学基礎1	0.25	0.20	0.05	0.00	0.50

集計には前々の学生に対して、総合評価点(100点満点)を加味した値を、算出した総合力とします。例えば左表が「修学基礎1」で86点と評価された場合、以下のようになります。

科目名	知識を取り込む力	思考・推論・創造する力	コラボレーション・リーダーシップ	発表・表現・伝達する力	学習に取り組む姿勢・意欲
修学基礎1	0.20	0.17	0.04	0.00	0.43

この考え方もとびつ総合力を集計すると、修学基礎教育課程で配当されている41科目(生涯学習科目およびコアが4科目を除く)を全て満点で修得した場合、学生は以下の総合力を修得したと想定できます。

課程名	知識を取り込む力	思考・推論・創造する力	コラボレーション・リーダーシップ	発表・表現・伝達する力	学習に取り組む姿勢・意欲
修学基礎教育課程	21.27	13.26	2.49	12.95	15.03

以上の総合力に関する重み付けを用いて、次頁以降に平成20年度カリキュラムの各教育課程の総合力指標を視覚化(レーダーチャート図)しました。結果、各教育課程におかれましては、本学が目指す「社会に貢献する能力」を身に付けた「行動する技術者」を育成する上で、今後、それぞれの授業科目やそれらが構成した教育プログラムで目標とする総合力(目標値)を設定する際の参考資料としてご活用ください。

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

27

主任会議資料
平成20年12月17日

平成20年度カリキュラムの総合力指標

区分	課程	知識を取り込む力	思考・推論・創造する力	コラボレーション・リーダーシップ	発表・表現・伝達する力	学習に取り組む姿勢・意欲	集小合計
S	専門教育課程	36.47	31.60	7.1	22.22	20.65	117.9
	(建築都市デザイン学科)	32.27%	28.02%	1.60%	12.65%	18.27%	100.00%
※	学科カリキュラム	33.03	24.07	5.94	40.7	54.25	201
		33.72%	24.50%	2.20%	18.65%	20.73%	100.00%

建築都市デザイン学科教育プログラムの総合力指標



13

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

28

学生自身による学習・教育目標の確認

総合評価QPAによる学習・教育目標達成度確認表

平成21年 3月30日

学号	氏名	学号	総合評価QPA			
			1年次	2年次	3年次	4年次
A	自己理解・自己管理能力：学習システムを習得し、社会に貢献できる人材	3.00				
B	基礎的な基礎知識の習得と基礎的実践能力：「物の仕組み」、「構造と動作」	3.00				
C	実践的コミュニケーション能力：日常業務で実践的、幅広い分野での対応	3.00				
D	従来の専門性と専門能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	1.00				
E	協同的コミュニケーション能力：協同的実践能力：数値的認識と学習	3.00				
F	コンピュータシステム・ソフトウェア・ハードウェアに関する基礎知識を習得し、その	3.00				
G	基礎的な実践能力：実践に関する基本的知識と実践力を習得し、その	3.00				
H	問題発見・問題解決能力：身近な問題を解決する能力に、関心を持っている	3.00				
I	専門的実践能力：機械工学科において何を学ぶか、機械工学と関連する	4.00				
J	専門的実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
K	基礎的な実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
L	コンピュータシステム・ソフトウェア・ハードウェアに関する基礎知識を習得し、その	3.00				
M	専門的実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
N	システム能力：機械の動機・システム能力に必要となる基礎知識	3.00				
O	専門的実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
P	工学設計能力：工学設計能力に必要となる基礎知識を習得し、その	3.00				
Q	実践的実践能力：機械工学に必要となる基礎知識を習得し、その	4.00				
総合評価QPA 基準値：1.00 (同じ卒業要件を履修する者)		2.00				

総合評価QPAによる学習・教育目標達成度確認表

平成21年 3月30日

学号	氏名	学号	総合評価QPA			
			1年次	2年次	3年次	4年次
A	自己理解・自己管理能力：学習システムを習得し、社会に貢献できる人材	3.00				
B	基礎的な基礎知識の習得と基礎的実践能力：「物の仕組み」、「構造と動作」	3.00				
C	実践的コミュニケーション能力：日常業務で実践的、幅広い分野での対応	3.00				
D	従来の専門性と専門能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	1.00				
E	協同的コミュニケーション能力：協同的実践能力：数値的認識と学習	3.00				
F	コンピュータシステム・ソフトウェア・ハードウェアに関する基礎知識を習得し、その	3.00				
G	基礎的な実践能力：実践に関する基本的知識と実践力を習得し、その	3.00				
H	問題発見・問題解決能力：身近な問題を解決する能力に、関心を持っている	3.00				
I	専門的実践能力：機械工学科において何を学ぶか、機械工学と関連する	4.00				
J	専門的実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
K	基礎的な実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
L	コンピュータシステム・ソフトウェア・ハードウェアに関する基礎知識を習得し、その	3.00				
M	専門的実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
N	システム能力：機械の動機・システム能力に必要となる基礎知識	3.00				
O	専門的実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
P	工学設計能力：工学設計能力に必要となる基礎知識を習得し、その	3.00				
Q	実践的実践能力：機械工学に必要となる基礎知識を習得し、その	4.00				
総合評価QPA 基準値：1.00 (同じ卒業要件を履修する者)		2.00				

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

29

総合評価QPAによる学習・教育目標達成度確認表

平成21年 3月30日

学号	氏名	学号	総合評価QPA			
			1年次	2年次	3年次	4年次
A	自己理解・自己管理能力：学習システムを習得し、社会に貢献できる人材	3.00				
B	基礎的な基礎知識の習得と基礎的実践能力：「物の仕組み」、「構造と動作」	3.00				
C	実践的コミュニケーション能力：日常業務で実践的、幅広い分野での対応	3.00				
D	従来の専門性と専門能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	1.00				
E	協同的コミュニケーション能力：協同的実践能力：数値的認識と学習	3.00				
F	コンピュータシステム・ソフトウェア・ハードウェアに関する基礎知識を習得し、その	3.00				
G	基礎的な実践能力：実践に関する基本的知識と実践力を習得し、その	3.00				
H	問題発見・問題解決能力：身近な問題を解決する能力に、関心を持っている	3.00				
I	専門的実践能力：機械工学科において何を学ぶか、機械工学と関連する	4.00				
J	専門的実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
K	基礎的な実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
L	コンピュータシステム・ソフトウェア・ハードウェアに関する基礎知識を習得し、その	3.00				
M	専門的実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
N	システム能力：機械の動機・システム能力に必要となる基礎知識	3.00				
O	専門的実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
P	工学設計能力：工学設計能力に必要となる基礎知識を習得し、その	3.00				
Q	実践的実践能力：機械工学に必要となる基礎知識を習得し、その	4.00				
総合評価QPA 基準値：1.00 (同じ卒業要件を履修する者)		2.00				

総合評価QPAによる学習・教育目標達成度確認表

平成21年 3月30日

学号	氏名	学号	総合評価QPA			
			1年次	2年次	3年次	4年次
A	自己理解・自己管理能力：学習システムを習得し、社会に貢献できる人材	3.00				
B	基礎的な基礎知識の習得と基礎的実践能力：「物の仕組み」、「構造と動作」	3.00				
C	実践的コミュニケーション能力：日常業務で実践的、幅広い分野での対応	3.00				
D	従来の専門性と専門能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	1.00				
E	協同的コミュニケーション能力：協同的実践能力：数値的認識と学習	3.00				
F	コンピュータシステム・ソフトウェア・ハードウェアに関する基礎知識を習得し、その	3.00				
G	基礎的な実践能力：実践に関する基本的知識と実践力を習得し、その	3.00				
H	問題発見・問題解決能力：身近な問題を解決する能力に、関心を持っている	3.00				
I	専門的実践能力：機械工学科において何を学ぶか、機械工学と関連する	4.00				
J	専門的実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
K	基礎的な実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
L	コンピュータシステム・ソフトウェア・ハードウェアに関する基礎知識を習得し、その	3.00				
M	専門的実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
N	システム能力：機械の動機・システム能力に必要となる基礎知識	3.00				
O	専門的実践能力：協同的実践能力：数値的認識と学習、基礎的	3.00				
P	工学設計能力：工学設計能力に必要となる基礎知識を習得し、その	3.00				
Q	実践的実践能力：機械工学に必要となる基礎知識を習得し、その	4.00				
総合評価QPA 基準値：1.00 (同じ卒業要件を履修する者)		2.00				

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

30

修学ポートフォリオ：1週間の行動履歴

1週間の行動履歴									
クラス名列: 1AB2-3 氏名: 工大 太郎									
※R・・・レポート、P・・・プリント									
月日	曜日	欠席・遅刻科目・理由	予習・復習・課題 所要時間(分)	部活動・利用施設・アルバイト などの内容・時間等	食事			睡眠時間	積極的な 運動時間
					朝	昼	夜		
1/7	日		統計・R・120分 数学・120分		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	6時間	-
1/8	月		数学・300分 英語・30分		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	6時間	-
1/9	火		英語・30分		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	6時間	-
1/10	水		統計・60分		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	6時間	-
1/11	木			部活・17:00～21:00	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	6時間	-
1/12	金				<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	6時間	-
1/13	土		統計・R・120分		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	6時間	-

【この1週間で特に努力した点、反省すべき点とその対策、日常生活において困った点など】

休み前にテストが利基終わっていたので今週はゆっくりとした時間を過ごすことができました。勉強も適度にやることのできたのでテスト前や課題が多い日だけ勉強するのではなく毎日するように心がけたい。音が降ると部活がなくなるので早く免許をとりたい。(116文字)

【教員のコメント】

戻る 印刷する

① 出欠遅刻・・・科目名、理由 ② 学習・・・科目名、資格名、時間数
 ③ 課外活動・・・教育施設、クラブ活動、アルバイト、時間数
 ④ 健康管理・・・朝昼夜の食事摂取、睡眠時間、積極的な運動時間
 ⑤ 1週間で満足したこと、努力したこと、反省点、日常生活で困ったこと

100529

K.E.T. Takeshi KUBO

31

自己評価レポートポートフォリオ

人間と自然 I	提出済
クラス名列: 1AB2-3 氏名: 工大 太郎	
<p>設問: 穴水研修レポートを記述してください</p> <p>設問に対する回答:</p> <p>設問1、チームワークの必要性について、現時点における自分の考えを述べよ。 一人では偏った考えになってしまうが、チーム全体で考えが出て、自分だけでなく、チーム全員の視野が広がると思う。また、チーム全員で力を合わせればできると思う。このように、チーム全員で力を合わせて行うことが、今の世の中では必要だと</p> <p>設問2、共同生活では「挨拶しあう」ことが大切である。これについて「挨拶しあう」という事は、礼儀、そして人と人との友好を深める。「親しき仲にも礼儀あり」という言葉があるように、どんなに仲の切ない、また、挨拶をされたら返す、自ら進んで挨拶をして返しての毎日気持ちよくなると思う。よって、私は「挨拶しあう」と</p> <p>設問3、共同生活では「時間を守る」ことも重要である。時間を守ると思うところを述べよ。 時間を守るという事は礼儀のうちのひとつだと私は考えている。行動を心がけている。今回「人間と自然 I」での、共同生活でも集合時間の5分前には集合場所へ行った。また、時間を守り、私だけでなく、仲間や先生方も気持ちよく、事を進められたと思う</p> <p>設問4、「人間と自然 I」の研修がまもなく終了する。終わるに当たり入学してまもない為、お互いよく知らない人同士の班となり最初が、私の場合、班員にとても恵まれていたのか、すぐに班員と打ち解け発表に向けての話し合いや、カッターでのチームワーク作り、疲れもあったが、とても充実したものとなった。「人間と自然」</p>	
戻る	

100529

K.E.T. Takeshi KUBO

32

プロジェクトデザインポートフォリオ

金沢工業大学 3/29(土) 09:31 9999999

工学設計ポートフォリオ (工学設計 I・II)
クラス名: 2AB2-3 氏名: 工大 太郎

工学設計 I

プロジェクト総括用紙 最終口頭発表スライド

能力の状況とその向上に関する自己評価

ポスター

入力項目

- ① ポスター
- ② 最終設計報告書
- ③ 最終口頭発表スライド
- ④ 能力状況とその向上に関する自己診断

I. 実社会で活躍できる能力に関するもの			
	第1週	第5週	第9週
A 口頭による発表			
A1 図、グラフ、表、イラスト等を効果的に使用して発表することができる	3	4	5
A2 発表用原稿を余り見ないで、聴いている人達の眼を見ながら発表することができる	3	4	5
A3 聞いている人達からの質問に適切に答えることができる	3	4	5
A4 他の人の発表に対して、適切な質問をすることができる	3	4	5
B 文書による表現(レポート)			
B1 明確で論理的な文章を書くことができる	3	3	4
B2 文章中に、良質な図やイラスト、表などを用いて説明することができる	3	3	4
C チームの一員として行動する能力			
C1 自分が分担した作業を期限までに、責任を持って、完成させる	3	4	4

金沢工大で実施しているアンケート

1. 金沢工業大学(KIT)で実施している主なアンケート

■KITで実施しているアンケート

調査名	目的・特徴など	対象・方法など
総合アンケート	<ul style="list-style-type: none"> KITを取り囲む関係者から、KITに対する評価、満足度を聞いて現状を把握し、改善に向けたヒントを見つけることを主目的としている。 関係者にはできるだけ共通の質問をして各属性間の比較をすること、経年変化を見ることができるよう調査を設計している。 無記名式の全数調査とし、毎年定期的を実施して定点観測的な調査と位置づけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象者: 在学生(新入生~4年生)、卒業修了生、教員、職員、卒業生が入社した企業(企業は3年毎) 回収数: 07年は全体で6,221の回答を回収 調査方法: 調査票を配布、記入後に回収(在学生、教員、職員へは学内で配布・回収、卒業修了生と企業へは郵送で配布・回収) 調査時期: 毎年2月から4月にかけて実施 その他: 無記名式として実施
授業アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 学生から各学期に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、KIT全体の教育改善につなげていくことを主目的としている。 全員から全科目(686科目)に対する評価を聞き、学部別、学科別、学年別、科目区分別の比較を行う。また、経年変化も確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象者: 在学生 回収数: 07年はのべ102,055の回答を回収 調査方法: 春学期、秋学期、冬学期の各学期の各授業科目の最終日に実施 その他: 記名式として実施
グループインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> 「総合アンケート」「授業アンケート」などで構築した仮説を検証するための定性情報を得ること、定量調査では見えない学生の考えや価値観などを把握することを目的とする。 定期的に行っているわけではないが、今後はこのような定性情報からのヒント発見が重要になると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象者: 在学生からその時々の調査目標に従って1グループ10人程度の学生に協力を依頼 実施人数: のべ60人 これまでの属性例: 「プロジェクト参加学生」「高専からの進学者」「特定の学科の学生」など

2.KITの情報収集活動の基本となる考え方

■KITが継続的にウォッチしていくべき情報の整理

個別調査の見直しの前に、KITが継続的にウォッチしていくべき情報を整理した。(内容は2002年の段階のものであり、変わっているものもある)

既存調査の見直しや国内外の他大学事例、研究結果などの分析より、KITに限らず大学が調査し継続的にウォッチしていくべき項目として、大まかに下記の3つの側面に分けることができると思われる。

- ①大学の機能評価 (機能として充分かどうか?きちんとできているかどうか?)
- ②大学自体の評価 (総合的に見て満足できるものかどうか?)
- ③公開され、他の大学と比較可能な評価測定情報

また、それらの項目をブレイクダウンすると下表のようにまとめることができる。そして、対応する調査を「総合アンケート」と「授業アンケート」で分類した。全ての項目を一括で実施することは難しいが、下記に挙げたような項目を大学の運営/経営指針として定量的に時系列でチェック(Check)し、各々の向上を目指す計画(Plan)と実施(Do)というサイクルを確立することを目指すべきであると思われる。

大項目	項目	備考	対応する調査	
大学の機能評価	建物	建物の良し悪しではなく機能を評価	総合アンケート	
	設備	設備の良し悪しではなく機能を評価	総合アンケート	
	ハード面評価	ネットワークなどの評価(≒設備)	総合アンケート	
	その他のハード・環境	大学周辺環境をハードとして評価	総合アンケート	
	ハード面の総合評価	ハード面の総合評価	総合アンケート	
	課外科目評価	科目自体の評価と学生の満足度	授業アンケート	
	ゼミ・卒業評価	科目自体の評価と学生の満足度	授業アンケート	
	実験・実技評価	科目自体の評価と学生の満足度	授業アンケート	
	個別カリキュラムの位置づけ	全体の中での意味のあった授業、好きな授業・役立った授業などの確認	総合アンケート	
	授業以外のカリキュラム	学生からの評価と満足度	総合アンケート	
大学自体の評価	カリキュラム以外のサポート	ガイドブックやオフィスアワー制度、就職支援などの評価	総合アンケート	
	卒業生の人材評価	基礎能力、人材、専門性など	総合アンケート	
	ソフト面の総合評価	ソフト面の総合評価	総合アンケート	
	卒業生	KITでの満足度	総合アンケート	
	関係者の満足度	KITでの満足度(保護者も含む)	総合アンケート	
		在学生(右学・卒業直前)	KITでの満足度(保護者も含む)	総合アンケート
		卒業・入学(新入生)	高校生(新入生)から見たKIT評価(保護者も含む)	総合アンケート
		人材輩出(企業)	KITの08年通じて見るKITの評価	総合アンケート
		社会(地域・社会一般)	周辺社会からのKITの評価	※現在実施不可
		教員	KITの満足度、職場としての満足度	総合アンケート
公開情報	職員	KITの満足度、職場としての満足度	総合アンケート	
	企業・入学状況	※KITとして、どの数値をウォッチしていくのか検討すべきだと思う。		
	就職状況	※競争率、偏差値、人気ランキング、就職率、経理・財務状況など、他大学との相対評価になると思われるが、KITの理念に適合するもの取り上げる。		
	社会貢献状況			
経営・資金状況				

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

35

3.総合アンケートの設計に関して

■質問項目の考え方

2003年に前項の考えを一步進めて、下記のような観点から総合アンケートの見直しを行った。

ポイント	考え方
対象者の整理	<ul style="list-style-type: none"> ● 良い大学であるためには「学生の満足度」を向上させるだけではなく、教職員には良い職場であり、企業・地元にも良い大学である必要がある。それらの考えをもとに利害関係者(ステークホルダ)を整理した。 ● KITのステークホルダを「高校生(とその保護者)」「在学生(とその保護者)」「卒業生」「教員」「職員」「企業」「高校教員」「地元地域」と位置づけ、その満足度を測ることを主目的とした。
質問分野の整理	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査項目を洗い直して「KITの機能面の評価」「KITの満足度」「社会が求める人材像」という3つの質問群に整理し、結果を将来的な改善に結びつけやすいようにした。 ● 主に在学生に聞く「KITの機能面の評価」に関しては、「施設・機能・サービス」「授業」「学習環境や学習支援」「学生生活」「就職・進学支援」という5つの領域で構成した。
結果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケートは「聞きっぱなし」しないで協力者にフィードバックするという基本的な考えに基づき、「学生用(ネット上で公表)」「企業用(協力企業に郵送)」も作成している。 ● 企業に対してのフィードバックは、大学の姿勢を示す有効な機会になっているものと思われる。

■対象者と質問内容の関係

対象者と聞く内容は下記の通りに整理し、各々が比較できるようにした。

対象者	KITの機能面の評価					KITの満足度	社会が求める人材像		備考 (独自の設問など)
	施設・機能・サービス	授業	学習環境や学習支援	学生生活	就職・進学支援		社会が求める人材像	現在の自分の能力	
新入生 (入学直後)	-	-	-	○	-	○	-	-	入学経緯、入学後の希望を聞く
1年生	○	○	○	○	-	○	-	○	
2年生	○	○	○	○	-	○	-	○	
3年生	○	○	○	○	-	○	-	○	
4年生 (卒業・修了直前)	○	○	○	○	○	○	-	○	
卒業・修了生 (卒業して1年経った卒業生)	○	○	○	○	○	○	-	○	職場満足度を聞く
教員	○	○	○	○	○	○	-	○	職場満足度を聞く
職員	-	-	-	○	-	○	-	-	
企業(1年に一度実施、過去3年間 に卒業生の人があった企業)	-	-	-	-	-	-	○	○	人財力に関する考え方を聞く

100529

K.I.T. Takeshi KUBO

36

4.授業アンケートの設計に関して

■質問項目の考え方

2005年に調査内容の整理をして質問項目の見直しを行っているが、その際には下記のような観点で見直しを行った。

ポイント	考え方
受講の流れによる整理	<ul style="list-style-type: none"> ● 各科目の受講の流れを整理して、授業改善に役立てやすいデータを収集する。 ● 「受講前」「受講当初」「受講中」「受講後」というフェーズに分けて質問を考えた。
質問の内容による整理	<ul style="list-style-type: none"> ● 質問を内容によって整理して重複を避け、できるだけ少ない質問で広い範囲を開けるようにした。 ● 大まかには「授業内容」「授業支援」「学生の姿勢」「教員の姿勢」「総合満足度」に分けて質問を考えた。
学生と教員の対比	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでは学生の取り組み姿勢だけを聞いていたが、「教員の姿勢」を聞くことで学生と教員の両者の姿勢を比較できるようにした。 ● また、「教員の姿勢」を聞くことで満足度に埋もれがちな「楽勝科目」の把握もできるようにした。

■現在の質問内容

上記の流れと内容の整理から質問を下記のように考えた。

	質問内容	流れ	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

■分析方法

主な集計・分析方法は下記の通り。

- 単純集計
- 経年比較
- 学年毎比較
- 学年毎、学期毎比較
- 同一学生群の追跡比較
- 学部別比較
- 学科別比較
- 科目区分別比較

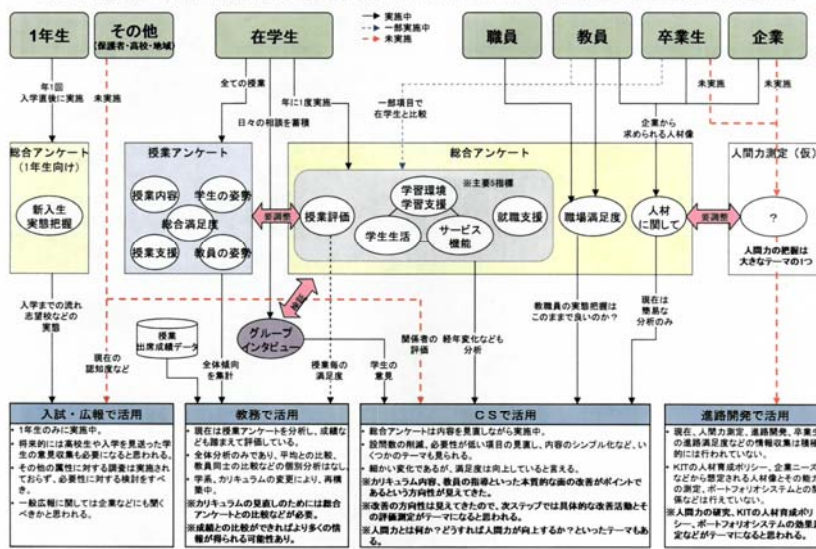
100529

K.I.T. Takashi KUBO

37

5.主なアンケートの位置づけ

現在、KITで実施されている各種調査や情報収集をまとめると下記ようになる。(上段が調査対象者、中間が調査・情報収集方法、下段が業務・部署)



100529

K.I.T. Takashi KUBO

38

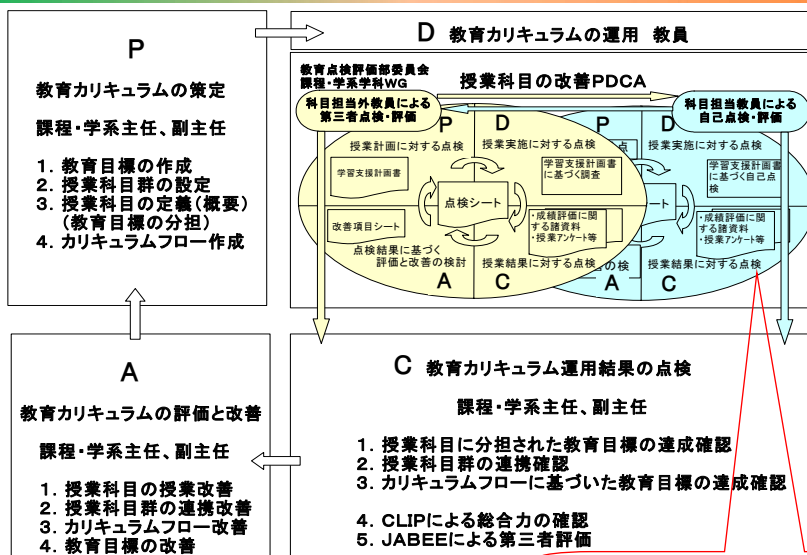
授業アンケート

(Web公開) 学生・教員ともに自己点検

- 「学生の行動目標達成度自己評価」
- 授業や教員についての不満、意見、改善要求に関する自由記述項目
- 該当科目で良かった点に関する自由記述項目
- その他、科目HPによる独自のアンケート
- 授業アンケート結果

フィードバックコメントシステム：Web公開

教育プログラムの点検・評価と改善のためのPDCA



授業アンケート結果を活用

全ての教員が自己点検

